

## ◆1 グループ（記録：向）

### 【自分のAP委員会に参加しての感想】

- ・在宅介護歴10年で、家にいて、こうした場所に出られなかった。今から、地域の中に溶け込むことが出来にくいので、このような委員会に入れてもらった。老老介護だったので、年齢的にも、何が出来るかは、現実として難しいが、これからは、サービスを受けるばかりではなく、何か、地域にもお返しをしていきたい。
- ・老人会の役員となり、このボランティアセンターづくり委員会にはいることになったが、「ボランティアとは何か？」について考えている。  
ひとつの例としては、
  - ア 今、やっている事（いきいきサロンなどの地域での活動）は、ボランティアといえるのか？いえないのか？
  - イ 役を降りると、ボランティアも終わることになるが・・・（当て職のボランティアは、ボランティアなのか？）
  - ウ 無報酬でボランティア精神を持った方の活動と、ボランティアをしてほしいという方を結びつけるのが、地域福祉委員会の組織ではないのか？
  - エ 役をしていても、少しは、楽しいところもあるわけで、自分の生活のなかでは、挨拶とか小さなことから、ボランティアが始まるのだろうと考えている。
- ・これからは、何事も行政頼みではなく、自分たちで行う時代になっていく。家にいて、黙っていても何も始まらない。支援をしてほしい人は、気兼ねで自分から「助けてほしい」という言葉が出せないのが、なんでも、相談できるような雰囲気、場所があればよい。
- ・高齢者や障害者だけではなく、子どもを育ていく方にも、力を入れていかねばならない。ファミサポのような、子育てに関する相互の助け合いが、各地域福祉委員会にあればよいし、いずれ、そうしていった方がよい。
- ・民生委員児童委員の立場としては、市からのいろいろな情報がほしい。制度などを知らないといけないと思う。地域の中には、困っている人がたくさんいるが、年齢、性別、その人の身体状況、環境などにより、支援のしかたは、それぞれ、違うのが現実だ。

## ◆2 グループ（記録：谷）

- ・4つのAP委員会のプログラムを中心にプロジェクトへの参加者が、大勢、あったので、驚いた。福祉に関心を持たれた方が増えてきて、能美市の将来も大丈夫なんじゃないかと思えた。
- ・今年から地域福祉委員会の役員を任された。自分の町は、福祉意識がまだまだ高まっておらず、動いていない状況なので、活動が進んでいる町会の活動を参考にして、全てを真似するのではなく、自分たちの町流に取り組んでいきたい。
- ・ボラセン委員会に関わってきて、内容が少しずつ進んできているが、「ボラセン」の知名度をもっと上げるにはどうすれば良いか？
- ・支えあいのしくみづくり委員会に参加させてもらって、他の委員のみなさんの意見などを聞いて、すごく勉強になった。
- ・今日の話し合いも含め、福祉について話し合う機会を、参考になる「お宝ばなし」を、

自分だけのものとして持ち帰るのではなく、自分たちの町に持ち帰って、町民に伝える機会をつくり、広めていくことが大事である。

- ・「自分たちがこの土地で安心して暮らしていけるかどうか」のことなのだから、やっぱり自分たちでやらんなんということに尽きる。これを広めていかんなん。

### ◆3 グループ（記録：小西）

#### 【自分たちの委員会のプログラムに参加しての感想】

- ・支えあいのしくみづくり委員会は、ほのぼのとしていい感じである。
- ・市内に、子育てに関して自由に寄れる場所がないので、総合的な広場を作っていきたい。
- ・障害者（児）にも目を向け、理解するために学習会を開く。
- ・「支えあい」とは、弱い者同士が支えあうとかではなく、地域全体で支えあうということで、その活動の拠点の確保は、公民館を開放することでできるのではないかな？
- ・京都の施設（いろいろな活動ができるような複合的な施設のこと「京都市民活動総合センター」）のような建物が出来るとよい。
- ・公民館の開放は、誰が管理するのかなどについて、問題がある。
- ・小松市の竜助町では、公民館で古本の貸し出しや子育て支援なども行っている。
- ・泉台町では、毎週金曜日に公民館を町民に開放している。
- ・地域福祉委員会を立ち上げたが、何をしてもよいか分からない人が、その答えを求めて、NWづくり委員会のプログラムに来ていたように思う。町会長が熱心で、それを補佐するような、女性たちが元気な地域福祉委員会は、活動が活発である。
- ・人づくり委員会では、認知症サポーター養成講座が、最初の取り組みであった。そして、今年度は、障がいのある方にも参加してもらえるようなふれあいの機会についてを話し合っ、ふれあいサンバに取り組んだ。
- ・福祉について広めていくには、身近な公民館という拠点を活用すること。
- ・住みやすい町づくりを目指して活動していこう。
- ・このように各AP委員会が一堂に集まり、話し合うことは、とてもよいことだと思う。いろいろな人が話し合う機会をつくることこそが、大事である。

### ◆4 グループ（記録：西出）

- ・子どもたちとのふれあいで、子育ての問題があるのがいろいろわかった。
- ・原田先生の話は、「共感」できた。優しい声、話し方なので、頭の中にスーッと入ってくる。もう一度、聞きたい。
- ・自分の子どもが障がいを持っている母親（「きつともっと」のメンバー）が、今年度から、人づくり委員会に参加してくれたのが、よかった。そこで、いろんな話を聞くことが出来た。
- ・地域の中で、高校生の活動が見えにくい。それでも、今年度は、寺井高校が、積極的にボランティアに関わってくれていた。
- ・昨年と比較すると、2週間という事で、余裕があって参加できた。また、こんな（プロ

グラム13)機会があると、他のAP委員会委員と一緒に話すことができ、自分は、自分の所属するAP委員会で何が出来るかと思うことができた。

- ・町会関係や地域福祉委員会との関係で、出来る事があつたら応援しようと思う。
- ・ボラセンづくり委員会では、誰でもふれあえる場所づくりを考えている。来年度は、ボラも地域福祉に参加したらいいのではないかとと思う。
- ・ひな弁当の記事が、北陸中日新聞に大きく載っていた。地域で頑張っている記事が出るとやる気が出る。
- ・地域の町会では、2年で役員が終わってしまう。町会の上の人が変わると中身が変わってしまう。今まで続いているものが、変わらず、続くにはどうしたらいいのだろうか。
- ・人づくり委員会の活動は、「子どもの時から、共感できたり共生ができるような人をつくること」を目標に活動にしていっていいのではないかと。大人は、なかなか変わることが出来ないのだから。

## ◆5グループ（記録：南野）

### 【自分たちの委員会のプログラムに参加しての感想】

- ・人づくり委員会のふれあいサンバでは、知的障害の方との、気負わないつきあいが、貴重な体験になった。
- ・NWづくり委員会（町会と福祉の関係）で、司会をしたが、参加者の町会で、「何かしなければならぬ」という思いが伝わってきた。いろいろな方が入った話し合いでは、グループワークを通じ、町内で、長年、福祉に関係している方と、初めて町会の役員になって、福祉に関係した方も入っていたので、初めての方にも、町会での自分の役割が、少し見えたような様子だった。しかし、自分は、我が町内のことが、よく、分かっていないので、自転車通勤などで地域の中の様子を見るということもしてみたい。
- ・それぞれのプログラムに参加したことで、4つの委員会のアクションプランが少しずつ見えてきた。AP委員会委員も参加者も笑顔で良かった。障害のある人もない人も同じ時間を共有できたことが良かった。
- ・支えあいのしくみづくり委員会は、日曜日の開催だったのでお父さんの参加が多く、親子でくつろぐ姿が見られ良かった。市の子育てサロンもあるが、親子サロンは、お母さん目線のふれあいの場づくりである。

### 【ほかほかP全体に参加しての意見】

- ・NWづくり委員会の申し込みが25人だったのに、当日の参加者が100人あまりというのは、各町会で何か福祉をやらなければという意識があるからではないか？
- ・各町会により、地域福祉委員会に関する意識の温度差は大きい。
- ・防災訓練のあと、いきいきサロンをするなど、地域福祉委員会の活動は、新しいことをするのではなく、今までの町会や公民館の活動とあわせてすればよい。
- ・向こう3軒両隣の助け合いになれば良い。
- ・公民館と町会が一緒になって、自治公民館（建物）を町民の情報交換の場所として、活用していく工夫などが必要だ。たとえば、不要になった介護用品（介護ベッド、車いすなど）を引き取り、それを必要な町民に貸し出しを行うなど。子育てでは、すでにこの

ようなことをしている。

- ・住民が一堂に集まるような機会は、公民館活動が中心となり行い、そこで、いろいろな方が顔見知りになっていく、そしてだんだんに、他人のことを気にかけたり、地域のことを気にするようになり、そして、助け合いの関係ができてくるのだと思う。
- ・健康について考えたり、生涯学習に関するというようなことは、主として「自助」の活動であり、福祉は、自分以外の他人や、地域のことを考えるという「共助」の活動である。初めは、自分のことや自分の身近な回りのことから、関心を持ち始めるので、地域のために考えるということは、なかなか難しい。
- ・子ども獅子の指導を青年団や壮年団に頼むなど、子供を介して「福祉」を考えれば、世代間交流を中心に、スムーズに「助け合い」の意識が広がるのではないかな。

## ◆ 6 グループ（記録：高畑）

### 【自己紹介】

- ・自分の所属するAP委員会のテーマは、地域福祉委員会の活性化。当初の予想より、はるかに参加者が多く、参加したみんなが、一生懸命だと思った。
- ・AP委員会のプロジェクトに初めて参加して、知ることが多かった。サンバを通して交流し、ほかほかとなり、講演を聞くことができた。
- ・AP委員会に参加している各団体は、「支えあう」ことをもっと意識していかないと・・・
- ・自分の孫が生まれたばかりで子育てに関心があった。他の若い委員の若い感性で進めることで、新しい考えが生まれている。自分は、「のみん劇団」でのみんちゃんになるのは、初めは厭だったが、自分がその役をすることで、自分の委員会の取り組みが、すすんでいくのなら、のみんちゃんになろうと思って、寸劇にも参加している。
- ・人づくり委員会に参加している、他の委員は、自分と比べると、テキパキと物事をすすめていたことに感心した。

### 【ボランティア・コミュニティ活動支援センター（ボラセン）について】

- ・ボラセンは、「ボランティアをしたい人」「ボランティアを依頼したい人」のマッチングをするために必要である。「需要」と「供給」の関係
- ・ボランティア活動を教える（リードして活動する）「インストラクター」のイメージがある。
- ・自分は、「読み聞かせ」の活動をしているが、ボランティアに登録はしていない。気持ちで行動しているので、「登録」とかに関らず、それでよいと思っている。

## ◆ 7 グループ（記録：海道）

### 【自身が参加されている委員会の取り組みについて】

- ・「たすかったわ～大賞」にもあったが、民生委員として、高齢者の一人暮らし宅の除雪をしていて、まわりに息子や孫がいても手伝わない家庭もある。考えてほしいと思う。
- ・地域福祉委員会で考える問題だが、まだ、そこまでは出来なくて、壮年団としての動き

がある。地域福祉委員会で、個人情報保護法のことも学び、1,000件以下であれば、用途を明確にしておくことに留意するなど、適切に対応していきたい。また、町会と地域福祉委員会とが、しっかりとつながっていないといけないと実感している。役職のみのつながりではなくて、実働する協力者が必要だと思う。個人の気持ちが重要なのだと思う。

#### 【今回の春まちほかほかプロジェクトに参加されての感想】

- ・人づくり委員会は、前年は認知症をテーマとしたが、今年度は障がいがある方も無い方も一緒に「共に生きる」ことを考えるための、ふれあいの場を創出したが、ふれあいは本当に大切だと実感した。
- ・ふれあい・話し合いとして公民館活動は重要だ。しかし、企業人だと、地域になかなか参加できないこともあり、そのような人達が多い新興住宅地では、まず、どこかに集まる場所があるとよい。ちょっと集まることが必要だと思う。
- ・のみん劇団の劇に参加することに対して、最初は、気持ちが重かったが、AP委員会の委員さんみなさんが、熱心で、支えてくださったので、楽しく出来た。また、多くの方と、直接会話し、触れ合うことができ、そのふれあいの大切さを理解でき、満足した。
- ・ボラセンづくり委員会でのプログラムでも、参加者の個人の思いが出てきて、おもしろかった。個人情報の問題もしかり、個人の時代・多様性の時代であり、この場のように、初めて会う方など色々な人が関わって、話し合うことが必要なのだと思う。もっとこのような機会があったらよかった。早く会いたかった。